



知内川からしおさいばしを望む

本部方針「創造し行動する夕陽会」を基に、渡島支部でも原点である親睦の和を深めるとともに、教育の振興に寄与することを念頭に、支部と支会の連携強化、会員の資質向上を図る事業推進を進めています。

「不易と流行」ではないが、時代の趨勢とともに変わる母校の根底に息づいている建学の精神「土地墾闢・人民蓄殖」はこれからも引き継がれ、夕陽会の支えとして生き続けて行くものだと思います。

今年度の総会で第二十七代支部長を仰せつかりました。その総会において、これまでの基本方針である「母校開學の精神を確かめ、夕陽会の原点である親睦の和を深めるとともに、教育振興に寄与する。」を継承していくことを承認していただきました。渡島支部は夕陽会の中核支部として、本部と一緒に諸先輩会員が當々として築きあげてきた実績をしっかりと継承しつつ、次に繋ぐことができるよう支部役員と一緒に力を尽くしていく所存です。支会・会員の皆様のご支援よろしくお願いいたします。

さて、開学以来、教員養成を目的とした大学として、師範学校・学芸大・教育大と統いてきた。函館校も時代の趨勢とともに変わってきていたが、小学校教員養成機能は存続されることとなつた。教育大学と称するからは教職を目指し、入学してくるものと思う。我々の世代ではそうであつた。ある大学の先生が「この世には三つの聖職がある。それぞれ『命を奪つて良い人』、「体を傷つけて良い人」、そして「魂に手を触れる人」である。それぞれの職業の名前は「裁判官、医師、教師」である。これらの人たちが本来なら人間にできないことをしなければならないのは、「社会に犯罪人、病人、子どもがいるからに他ならない。」と述べている。この道南圏でこの三つの聖職のひとつ教職を育成する大学は、教育大学函館校のみである。残念ながら、裁判官や医師を育てる大学は道南はない。教職が聖職かは異論があるが、諸先輩がこの渡島の地で、どんなに時代が変わろうと、その都度子どもたちの学びと心豊かな人間形成のために、前向きに日々苦労を重ねられてきた。地域とともに人を育て、はぐくんできた功績は大である。その土地に住み、子どもを育てはぐくみ、子どもの夢・地域の夢を語り合う。その土地の気候風土歴史、そして、その土地にあった教育。「地元の大学」「地元の名物先生」「地元のわらしやんじを育てる。」母校の、そしてこの渡島の夕陽会員のあるべき姿である。

また、函館校は地域の知的財産である。昨年、大学を勇退された田中和久先生に「スポーツとは…」と題して町内の保護者並びに教育関係者を対象に講演をいたしました。大学の恩師の講演であり、三十数年前にタイムスリップし、学生の面持ちで講演を目をこすりながら聞かせてくださいました。子育てにかかり、また共育（ともに育てる）についての多くのご示唆をいたしましたと思つてゐる。まさしく知的財産の共有でありました。

夕陽渡島

夕陽渡島

NO. 120
平成25年7月19日
夕陽会渡島支部事務局
八雲町・雲石小学校



夕陽会渡島支部 支部長

鈴木牧男

三つの聖職と夕陽の心・絆

平成二十五年度

支部総会・懇親会

副支部長 高橋伸夫



平成二十五年度の総会及び大懇親会・新会員歓迎会が、去る五月十一日、ホテル法華クラブ函館で開催されました。

総会は、市川支部長の挨拶で始まり、夕陽会本部の橋田会長より祝辞をいただきました。その中で、母校の小学校教員養成機能維持の動きについての説明があり、まだ流動的ではあるものの希望を感じることができました。

その後、鈴木副支部長の進行で報告・協議が滞りなく進み役員改選が行われました。二年間に渡り尽力した市川支部長に替わり、新たに鈴木支部長を選出し、渡島支部の新体制がスタートしました。

総会後、来賓及び同窓会員合わせて百二十三名が夕陽賛歌を高らかに歌い、大懇親会・新会員歓迎会がスタートしました。橋田会長の発声で祝宴に入り、参加した新会員七名の活気溢れる自己紹介が行われました。若い会員が発した情熱と意気込みは、今後の管内教育の充実と渡島支部発

母校開学の精神を確かめ、夕陽会の原点である親睦の和を深めるとともに教育の振興に寄与する。

展の源となることを確信させました。

恒例となつた大抽選会の後は、応援団による三三七拍子で全参加者の心を一つにし、寮歌大合唱では、力強い歌声が会場に響き渡り、盛会の中で会を閉じました。

副支部長 高橋伸夫

●運営方針●

本部との情報交換を積極的に進める。

一、支部・支会の連携強化

・会員の同窓意識を盛り上げる。

二、会員相互の助け合いを大切にする。

・会員相互のつながりを密にする。

三、「夕陽渡島」の発行

・親しまれ読みやすい「夕陽渡島」の発行に努める。(年3回発行)

四、研修事業の活発化

・新会員激励会を開催し、教職への意欲づけを図る。

五、退職会員との連携

・会員研修の促進と研究実践者の積極的推進を図る。

六、勇退会員への「感謝と激励の会」を開催する。

・夕陽会渡島支部「終身会員」への勧誘を促進する。

七、勇退会員へ記念品を贈る。

・勇退会員の資料集「勇退者の横顔と足跡」を発行する。

八、本部前納会員への加入のための支援を行う。

・本部主催の行事への積極的参加と協力を図る。

九、本部事業への積極的協力と参加を行う。

・本部事業への積極的協力と参加を行う。

十、関係機関との連携・提供を推進する。

・関係機関と連携を強化して、事業を推進する。

十一、その他

・教頭昇任者・校長採用者・受賞者等へ祝詞等を送付する。

十二、慶弔関係への対応を迅速に行う。

・管内及び他支部との情報交換に努める。

十三、運営方針

・各支会の総会・会合には積極的に参加し、支部と支会の連携を図る。

十四、支会訪問と支援

・各支会の総会・会合には積極的に参加し、支部と支会の連携を図る。

支会だより

渡島の一翼を担う 「夕陽やくも」



八雲支会長
(落部中学校)
松岡利夫

（内浦湾）と日本海に面する町になつたことにちなみ、新たに「二海郡（ふたみ）」という郡名が付けられました。

（以上八雲町HP）学校数は現在、旧熊石と旧八雲を合わせて小学校十校、中学校五校の十七校です。

さて、本年度の八雲支会は、去る四月二十六日に、本部奥崎敏之幹事長、渡島支部鈴木牧男副支部長をお迎えし、支会総会を開催しました。

新会員二十一名を含む、小学校四十六名、中学校二十五名の渡島支部でも最多の学校数の支会です。総会では教育大函館校の現状や夕陽会の取組について情報を共有し、その後の歓迎会では、清水久雄教育長をお迎えし、八雲の子ども達の教育を十二分に推し進める決意を新たにしました。

各学校に「賞賛」の花束を！

これが本年度の五稜支会の願いであります。本年度の五稜支会は、私と義務教育指導班の細川・北嶋指導主事の3名と少数ですが、研修事業や学校訪問の実施、各種会議の運営のほか、皆様方とかかる機会を多くもたせていただきながら、業務を推進させていただいているところです。これもひとえに、夕陽会の皆様方のお力添えの賜と感謝いたしております。

各学校が「賞賛」の花束を手にされるためには、学校力と授業力の向上を抜きには考えられません。学校力の向上にかかわっては、校内の組織化や指導体制の整備はもとより、校長先生方の強いリーダーシップのもと、保護者や地域を巻き込んだ、地域とともにある学校づくりに向けた取組の工夫改善が求められており

することもとより、思考力・判断力・表現力等が育成されるよう、先生方の工夫された指導計画のもと、習得した力が課題解決の場面で活用されるよう指導の工夫が求められます。

いずれにいたしましても、子どもたちが、地域基盤社会の中で、生きる力をしつかり身につけていくよう、学校教育としてなすべきことをしっかりとおさえ、個に応じながら指導を工夫し続けていく必要があります。教育局といたしましても、指定事業の成果や諸調査の結果の分析などをもとに、各学校を訪問した際は、これらのことが教育課程の編成や校内研究の取組などにおいて実現されていくよう御支援してまいりたいと考えております。

今後も、皆様方のニーズに応えられる五稜支会となるよう、研鑽を積み重ねてまいりたいと考えておりますので、御指導御鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

支会だより

各学校に「賞賛」の花束を！



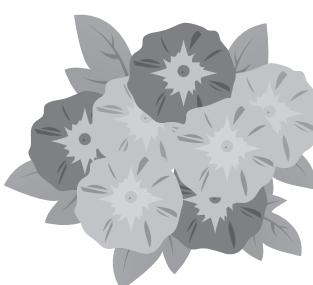
五稜支会長
(渡島教育局)
沢田紀之

八雲町は渡島半島の北部にあり、道南の拠点都市函館市と全道有数の重工業都市室蘭市の中間に位置します。東は内浦湾（噴火湾）、西は日本海に面し、北は長万部町、今金町、せたな町、南は森町、厚沢部町、乙部町と接しています。面積は約九五六平方キロメートルで渡島支庁管内最大の面積をもちます。渡島山系をはさんで、東は遊楽部川、野田追川、落部川が流れ、西は相沼内川、見市川が流れています。

八雲の町名は明治十四年に尾張藩の旧藩主徳川慶勝候が、豊かで平和な理想郷建設を願い、古事記所載の日本最古の和歌である須佐之男命が読んだ「八雲立つ 出雲八重垣妻籠みに 八重垣作る その八重垣を」を引いて名付けました。平成十七年十月一日、渡島山系をはさんで隣り合っていた、渡島管内山越郡八雲町と檜山管内爾志郡熊石町が新設合併



また、授業力の向上にかかわっては、子どもたちが知識・技能を習得



平成25年度 夕陽会渡島支部各支会役員名簿

支会名	支 会 長		幹 事 長	
	氏 名	所 属	氏 名	所 属
松 前	飯 田 典 紀	大島小学校	坂 井 順 也	大島小学校
福 島	幕 田 真 二	吉岡小学校	竹 下 雅 彦	吉岡小学校
知 内	新 谷 公 康	涌元小学校	齊 藤 縁	涌元小学校
木古内	伊 藤 良 美	木古内小学校	井 上 翔 仁	木古内小学校
北 斗	村 國 壽 英	谷川小学校	小野寺 幸 恵	谷川小学校
七 飯	小 林 博	七重小学校	小野寺 徹	七重小学校
鹿 部	工 藤 彰 子	鹿部小学校	船 橋 恭 二	鹿部小学校
森	小川原 隆 男	森中学校	佐 藤 君 博	森中学校
八 雲	松 岡 利 夫	落部中学校	雨 澤 啓 司	落部中学校
長万部	鈴 木 俊 浩	長万部小学校	渋 谷 智 実	長万部小学校
五 種	沢 田 紀 之	渡島教育局	北 嶋 公 博	渡島教育局

平成25年度 夕陽会渡島支部役員名簿

役 職	氏 名	所 属
顧 問	藤 枝 勝 雄	終身会員
	黒 崎 勇 司	終身会員
	竹 内 良 容	終身会員
	小 林 基 英	終身会員
	市 川 秀 雄	終身会員
	和 高 敏 明	上磯小
支 部 長	鈴 木 牧 男	福 島 中
副 支 部 長	高 橋 伸 夫	福 島 小
監 察	木 村 孝	石 別 小
	小 林 博	七 重 小
	山 崎 晃	萩 野 小
幹 事 長	井 上 一 男	雲 石 小
副 幹 事 長	竹 嶋 充	峠 下 小
会 計 幹 事	小 笠 原 英 緒	萩 野 小
庶 務 幹 事	井 上 翔 仁	木 古 内 小
	浦 田 慎 一	上 磯 中
	五十嵐 義 幸	上 磯 小
広 報 幹 事	瀧 谷 克 巳	藤 城 小
	岩 井 栄 一	浜 分 小

〒043-0416 八雲町熊石雲石町744 八雲町立雲石小学校内

井 上 一 男

電話 01398-2-3387 FAX 01398-2-3590

会務中間報告

【24年度】

4月6日(土) 各支会現況調査依頼・総会案内

・大懇親会案内発送

10日(水) 第3回支部役員会議の案内発送

16日(火) 本部第4回役員会に出席

（国際ホテル 鈴木支部長・井

22日(月) 第3回支部役員会議開催

（附属小 高橋幹事長）

26日(金) 八雲支会総会・懇親会に出席

（萩野小）

（本部・橋山副幹事長）

（国際ホテル 鈴木副支部長）

【25年度】

5月11日(土) 平成25度支部総会・大懇親会

（新会員歓迎会 開催）

（ホテル法華クラブ函館 参加者123名）

5月13日(月) 支部大懇親会・新会員歓迎会の礼状発送

6月6日(木) 北斗支会総会・懇親会に出席

（本部・橋田会長）

6月7日(金) 知内支会総会・懇親会に出席

（本部・高橋副支部長）

6月7日(金) 鹿部支会総会・懇親会に出席

（本部・木村副支部長）

6月7日(金) 鹿部支会総会・懇親会に出席

（本部・奥崎幹事長）

6月7日(金) 鹿部支会総会・懇親会に出席

（本部・小林監査）

6月7日(金) 第5回本部役員会に出席

（附属小 鈴木支部長）

6月13日(木) 第1回支部役員会議の案内発送

6月14日(金) 第6回本部役員会に出席

（国際ホテル 鈴木支部長・井

6月22日(土) 全国支部長会議に出席

（国際ホテル 鈴木支部長・井 上幹事長）

6月22日(土) 全国支部長会議に出席

（国際ホテル 鈴木支部長・井 上幹事長）

6月22日(土) 全国支部長会議に出席

（国際ホテル 鈴木支部長・井 上幹事長）

6月28日(金) 各支会に会費納入のお願い送付

7月9日(火) 七飯支会総会・懇親会に出席

（本部・橋田会長）

7月9日(火) 福島支会総会・懇親会に出席

（本部・奥崎幹事長）

7月12日(金) 第1回支部役員会議開催

（萩野小学校）

7月18日(木) 森支会総会・懇親会に出席

（本部・橋田会長）

7月18日(木) 第1回支会長・幹事長会議開催

（大中山コモン）